

平成30年度 堀リベラル高等学校 学校評価

1. めざす学校像

建学の精神である「愛と真実の教育」「情操豊かな女子教育」を基本とし、新しい時代にはばたく力、生きる力を育む女子教育の理想をめざす

1. 明朗な女性の育成
2. 知性豊かな女性の育成
3. 実行力のある女性の育成

2. 中期的目標

1. 特色授業や行事を通して専門性を高める

(1) 本校独自の特色授業や行事を充実させる。

ア 「ダンス」「楽器」「演技声優」「イラスト」の身体表現科目を中心に、「スピーチ」「ディベート」「プレゼンテーション」などの言語表現を学習し、自己表現力、コミュニケーション力を育み、表現力豊かな女性の育成を目指す。

※自己評価アンケートで、表現教育科の授業で専門性・自己表現力・コミュニケーション力を高める達成度を90%にする。

イ 表現教育で培った力を発表する行事を設ける。発表の場所や鑑賞してもらう人などの設定を変え、さまざまな環境で自己表現力と専門性を高める。特に修学旅行先のグアムでは、「海外ライブ」としてステージの発表を披露し、海外で現地の方含めてたくさんの人の前で自己表現する。また3年次の卒業制作発表(リベラルライブ)では3年間の表現教育集大成を保護者や外部からの観客の前で披露する場を設ける。

※自己評価アンケートで、発表する行事を通して専門性・自己表現力・コミュニケーション力を高める達成度を90%にする。

2. 学習環境の整備と自分の目指す進路の実現

(1) 1年次は習熟度別クラス編成をおこない、効率性の高い授業展開を目指す。また通常授業だけでなく、「早朝テスト」や「放課後補習」、「外部模試対策」、「長期休暇の講座」「勉強合宿」「勉強塾」など様々な学習環境を整備し、生徒に学習する場を与える。そして学習習慣を定着させることで学力向上につなげ、一人一人の進路の実現をする。

ア 家庭学習の習慣が不十分であったり、学校以外に学習する場がない生徒がいる中、「早朝テスト」や「放課後補習」を活用し、勉強が苦手な生徒にも学習する場を与え、学習習慣を身につけさせる。また、勉強が得意な生徒の力を伸ばすために、「外部模試対策」「長期休暇の講座」「勉強合宿」などの機会を設け、大学進学を目指す生徒のバックアップに力を入れる。

※平成30年度卒業の表現教育科5期生の進路決定率を95%にする。

イ 「勉強塾」では、国公立大学・難関私立大学の進学実績を上げるために放課後7・8・9限目に外部の予備校講師による受験対策講座を実施する。今年度より、対象学年を3学年全てに拡大し、早期から大学進学に向けた応用力の育成を図る。

※「勉強塾」参加生徒の希望する進路の実現率を85%にする。

ウ 一人一台のタブレットを持ち、情報化社会での様々な取り組みやアクティブラーニングなどの授業に対応させていく。一方、教員もタブレットやプロジェクターを利用したICT教育に取り組み、多様化する学習に挑戦する。

※タブレットやプロジェクターを利用したICT教育の達成率を70%にする。

3. 身だしなみ・マナー指導による女子教育

(1) 生徒のマナー意識を高め、頭髪・服装指導を徹底し、身だしなみを整える。

ア 前年度の「リベルテマナー」から継承した新しいマナー教育として「挨拶・頭髪服装」を大切にし、身だしなみが整い、マナーの良い生徒を育成する。

※自己評価アンケートのマナー意識の達成度を80%にする。

イ 身だしなみ指導として、頭髪・服装指導を徹底する。自分の母校となる学校の制服にプライドを持たせ、身だしなみを整えることにより、より本校の魅力を示す。

※自己評価アンケートの身だしなみ・服装・頭髪指導の達成度を90%にする。

<教職員>

☆特色授業や行事を通して専門性を高める

- ① 専門的な授業で生徒の専門性・自己表現力・コミュニケーション力を高めるという達成度は全体平均で 81%となり、昨年度(75%)より大きく上回り、平成 28 年度並(85%)に戻った。特に自己表現力、コミュニケーション力を高めるという項目はいずれも 86%となり、7 年目となる表現教育の取り組みには一定の教育効果があることを示すことができている。
- ② 「表現教育の場や行事において、専門性・自己表現力・コミュニケーション力を高める」という項目においては 100%を達成しており、全教員が表現教育の成果を感じることができている。授業の中で培った表現力を、学園祭や海外への修学旅行などで発表することを通じて、自己の振り返りができ、3 年次に外部で行う卒業制作発表(リベラルライブ)でその集大成を見せる一連の流れが高い評価につながったと考えられる。また、保護者や外部の中学生などにも観覧してもらった感想からも非常に満足度の高い取り組みになっている。今後も生徒が主体的に関わることができる行事計画・運営を目指し、生徒たちの自己表現力と専門性を高めていきたい。
- ③ 「クラブ活動において、専門性・自己表現力・コミュニケーション力を高める」も 86%を達成した点から、授業に限らず、クラブ活動にまで表現力の向上はつながっており、一人一人の表現をする場を多面的に設定・指導できたといえる。
- ④ ①～③のような成果に至った要因として、昨年度の反省点の 1 つであった「多様化する生徒一人一人の力を見極め、力を伸ばしていくために、表現教育担当者の会議を増やし、情報交換を増やして対策していきたい」が PDCA サイクルで具体的に実施されたことがあげられる。
- ⑤ 一方で、指導方法や学校行事の工夫改善についての達成度は 64%で、7 年間である程度の改善努力が達成され、新しい取り組みを生み出す力が停滞している可能性がある。今後は 2020 年の新大学入試にも掲げられている表現力につながる言語表現(スピーチ・ディベート・プレゼンテーション)の見直しと改善を大きな目標として掲げていきたい。

☆学習環境の整備と自分の目指す進路の実現

- ① 昨年度に引き続き「早朝テスト」「長期休暇の講座」「外部模試対策」「勉強塾」を実施し、さらに今年度は「習熟度別放課後補習」「勉強合宿」を追加して学習環境の整備を充実させてきた。この結果、「個々に応じた学習環境の整備により生徒に学習する場を与えられた」については、69%と昨年度(57%)より大幅に上昇し、平成 28 年度の 43%から見ると、この 2 年間で 20%以上の上昇を達成できた。リベラル 1 期生については入学時より習熟度別クラス編成をおこない、日常的な学習環境も整備することで学習効果の向上を図った。その結果、「授業を大切にさせる」という項目においては全体でも 79%を達成し、昨年度の 63%を大きく上回ることができた。
- ② 一方、「学習習慣を定着させる」については 54%にとどまった。開校 1 年目ということもあり、学年間での取り組みに差が生まれ、全体としては低い数字にとどまった。1 年生についてはスタートから新しい取り組みにスムーズに挑戦できたものの、2・3 年生は従来の学習環境が大きく変化したことに対応できなかつた生徒もいたことで全体平均として目標に及ばなかったといえる。教員の学習に対する意識は高くなつたが、様々な生徒の実情に上手く合つていなかつたともいえる。求めるものが高くなってきており、それに相応する生徒へのアプローチを考えないといけない。生徒一人一人に合つた学習環境の追求とともに、今できなくてもこれからできるようになることを目標に、中身を充実させていくことが課題である。
- ③ 今年度より、1 年生に一人一台のタブレットを持たせ、授業や行事、家庭学習での活用を試みた。また教員にも一人一台のタブレットを配布し、プロジェクターを利用した授業の取り組みやタブレットによる連絡事項の管理に挑戦した。結果、ICT 教育の活用の達成度は 67%と目標値に一步届かなかつた。導入初年度としては取り組む教員の意識が高く、タブレットとプロジェクターを連携した新しい授業が多く見られ、生徒を主体とするアクティブラーニングに挑戦できた教員もいた。また平成 28 年度より取り入れた、学習支援のクラウドサービス「C l a s s i」については、教員と生徒間を結ぶツールとしてかなり使いこなせるようになってきた。今後は、生徒が主体的にタブレットを使用できる場面を増やし、言語表現教育と連携した取り組みを増やしていくたい。
- ④ 「生徒に進路目標を設定させる」については 69%と昨年度(85%)より大きく減少した。また「生徒の希望する進路を実現させる」も 75%で昨年度(86%)を大きく下回った。その原因としては、3 年生に従来の進路指導の段階的な取り組みが上手くはまらず、早い段階に進路目標を設定できなかつたという点があげられる。また、今年度の 3 年生の進路決定率は 85%で目標値に届かなかつた。今年は特に卒業後も芸能活動を継続したいと望む生徒が複数名おり、多様化する進路希望の影響があつたといえる。一方、勉強塾に参加した生徒の希望する進路実現率は 75%であった。複雑化する入試制度の影響もあり、実際に進路選択に最後まで迷う生徒も多い中、今年度は 1・2 年生対象に早くから進路指導を進めてきた。来年度も高大接続による入試が大きく変わっていくことに教員もしっかりと対応して、生徒の進路目標設定のサポートをしていきたい。

☆身だしなみ・マナー指導による女子教育

- ① 平成 30 年度は、前年度の「リベルテマナー」から継承した新しいマナー教育「挨拶・頭髪服装」を指導方針として取り組んだ。そうした中で、マナー指導の工夫・改善については 60%と昨年度(63%)とほぼ同じであった。新入生オリエンテーションで校長によるマナー教育を筆頭に、朝の挨拶運動や定期的な頭髪服装指導などを継続し、一定のマナー指導の形はつくれたと言える。校内だけでなく校外でも生徒からの挨拶ができるようになったのは、先輩が良い手本になってきている証拠である。一方、「生徒のマナー意識を高める」が 60%と昨年度(70%)を下回った点から、今後はマナーの意味をしっかりと理解させ、自然と振る舞えるマナー教育を徹底していきたい。
- ② 身だしなみ・頭髪・服装指導を徹底することに関しては減少がみられた。これは学年間での指導の不徹底が原因と考えられる。今年度は指導に時間がかかるケースも見られたことから、次年度以降は 1 年次より計画的に指導を徹底していくことが必要である。

<自己評価アンケートの結果と分析>

3. 本年度の取り組み内容及び自己評価

| 中期的目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取り組み計画・内容 | 評価指標 | 自己評価 |
|-----------------------|-----------------|--|---|---|
| 1. 特色授業や行事を通して専門性を高める | ア 特色授業の取り組み | ・ 「ダンス」「楽器」「演技声優」「イラスト」の身体表現科目を中心、「スピーチ」「ディベート」「プレゼンテーション」などの言語表現法を学習し、自己表現力、コミュニケーション力を育み、表現力豊かな女性の育成を目指す。 | <表現教育科> ア自己評価アンケートで、表現教育科目の授業で生徒の専門性・自己表現力・コミュニケーション力を高める達成度を90%にする。 | <表現教育科> ア「ダンス」「楽器」「演技声優」「イラスト」の身体表現科目を中心、「スピーチ」「ディベート」「プレゼンテーション」などの言語表現法など専門的な授業で生徒の専門性・自己表現力・コミュニケーション力を高めるという達成度は81%(▽)だった。ただし、身体表現の授業における、生徒の自己表現力、コミュニケーション力を高める達成度は目標値に迫る86%(▽)で、生徒が自分に自信を持って授業に取り組んでいる様子がうかがえる。 |
| | イ 発表する行事の設定 | ・ 発表の場所や鑑賞してもらう人などの設定を変え、様々な環境でより自己表現力と専門性を高める。特に修学旅行のグアムでは、「海外ライブ」としてステージの発表を披露し、現地の方含めてたくさんの人の前で自己表現する。また、3年間の表現教育集大成としての卒業制作発表(リベルライブ)を成功させる。 | イ自己評価アンケートで、発表する行事を通して生徒の専門性・自己表現力・コミュニケーション力を高める達成度を90%にする。 | イ発表する行事を通して生徒の専門性・自己表現力・コミュニケーション力を高めるという達成度は100%(○)となった。先輩たちが道筋を作ってくれたおかげで、イメージができている後輩たちの表現力は年々クオリティが高くなってきている。今後もひとり一人の個性が發揮できるように、行事の計画準備を更に完成度の高いものを目指し、生徒たちの自己表現力と専門性を高めていきたい。 |
| | ア 学習環境の整備と進路の実現 | ・ 家庭学習の習慣が不十分であったり、学校以外に学習する場がない生徒がいる中、「早朝テスト」や「放課後補習」を活用し、勉強が苦手な生徒にも学習する場を与え、学習習慣を身につけさせる。また、勉強が得意な生徒の力を伸ばすために、「外部模試対策」「長期休暇の講座」「勉強合宿」などの機会を設け、大学進学を目指す生徒のバックアップに力を入れる。 | ア平成30年度卒業生の進路決定率を95%にする。 | ア「早朝テスト」「長期休暇の講座」「外部模試対策」「勉強塾」「習熟度別放課後補習」「勉強合宿」などを実施して学習環境の整備を充実させた。その結果、「個々に応じた学習環境の整備により生徒に学習する場を与えられた」については、69%(○)と昨年度(57%)より大幅に上昇し、「授業を大切にさせる」という項目においても全体で79%(○)を達成し、昨年度の63%を大きく上回ることができた。しかし、今年度の進路決定率は85%(▽)で目標値に届かなかった。芸能活動の継続を望む生徒の増加もあり、多様化する進路希望の影響が原因の1つにあげられる。 |
| | イ 勉強塾からの進路実現 | ・ 「勉強塾」では、国公立大学・難関私立大学の進学実績を上げるために放課後7・8・9限目に外部の予備校講師による受験対策講座を実施する。今年度より、対象学年を3学年全てに拡大し、早期から大学進学に向けた応用力の育成を図る。 | イ勉強塾に参加した生徒の希望する進路の実現率を85%にする。 | イ 勉強塾に参加した生徒の希望する進路実現率は75%(▽)であった。外部の進路カウンセラーと連携し、綿密なスケジュールで1年間対応してきたが、途中から参加した1名のサポートが上手くできなかつた。複雑化する入試制度の影響もあり、実際に進路選択に最後まで迷う生徒も多い中、今年度は1・2年生対象に早くから進路指導を進めてきた。来年度も高大接続による入試が大きく変わっていくことに教員もしっかりと対応して、生徒の進路目標設定のサポートをしていきたい。 |
| | ウ ICT教育の推進 | ・ 生徒一人に一台のタブレットを持たせ、情報化社会での様々な取り組みやアクティブラーニングなどの授業に対応させていく。一方、教員もタブレットやプロジェクターを利用したICT教育に取り組み、多様化する学習に挑戦する。 | ウタブレットやプロジェクターを利用したICT教育の達成率を70%にする。 | ウ ICT教育の活用の達成度は67%(▽)と目標値に一歩届かなかつた。しかし、導入初年度としては取り組む教員の意識が高く、タブレットとプロジェクターを連携した新しい授業が多く見られ、生徒を主体とするアクティブラーニングに挑戦できた教員もいた。また平成28年度より取り入れた、学習支援のクラウドサービス「Classi」については、教員と生徒間を結ぶツールとしてかなり使いこなせるようになってきた。 |

| 中期的目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取り組み計画・内容 | 評価指標 | 自己評価 |
|-----------------------|---------------|---|---|--|
| 3. 身だしなみ・マナー指導による女子教育 | ア マナー教育への取り組み | <ul style="list-style-type: none"> 前年度の「リベルテマナー」から継承した新しいマナー教育として「挨拶・頭髪服装」を大切にし、身だしなみが整い、マナーの良い生徒を育成する。 | ア自己評価アンケートで生徒のマナー意識を高める達成度を80%にする。 | <p>ア 生徒のマナー意識を高める達成度が60%（▼）となった。またマナー指導の工夫・改善については60%（▽）と昨年度並（63%）であった。取り組みとしては、校長による新入生へのマナー教育、朝の挨拶運動や定期的な頭髪服装指導を1年通じて継続しておこなうことができた。一方で目標値を下回っている原因として、指導に時間がかかる生徒への対応があげられる。生徒のマナー意識は年々向上してきている。校内だけでなく校外でも生徒からの挨拶が当たり前のようになってきていている。先輩が良い手本になってきている証拠である。運動部員以外の生徒たちも、気持ちの良い挨拶をすることができている。今後は、マナーの意味をしっかりと理解させ、自発的な行動につながるよう努力したい。</p> |
| | イ 身だしなみ指導の徹底 | <ul style="list-style-type: none"> 身だしなみ指導として、頭髪・服装指導を徹底する。自分の母校となる学校の制服にプライドを持たせ、身だしなみを整えることにより、より本校の魅力を示す。 | イ自己評価アンケートで生徒の身だしなみ・頭髪・服装指導を徹底する達成度を90%にする。 | <p>イ 生徒の身だしなみ指導を徹底する達成度が昨年度より減少となった。これは学年間での指導の不徹底が原因と考えられる。一部の指導に時間がかかった生徒がいたことにより、徹底できなかったという評価につながったといえる。次年度以降は1年次より計画的に指導を徹底していくことが必要である。マナー意識と同様に年々身だしなみ意識も高くなっています。達成度については、目標数値を超えることができないので、更に、自分の学校を大切にして、より自分の母校にプライドを持たせ、身だしなみから整える意識を醸成していく。そして本校の制服の良さや魅力も示していきたい。</p> |